

北海道外来植物便覧・2015年版

北海道野生植物研究所 五十嵐 博

便覧とは、各種文献が何頁に掲載されているかを調べるために役立つものであり、図鑑ではない。当初の申請では北海道帰化植物便覧・2015年版で申請したのだが、北海道大学出版会の編集会議で北大の諸先生からの指導で「帰化植物」を「外来植物」に変更した。過去に自費出版した2000年版当時は「帰化植物」と呼ぶことが一般的であったが、近年は環境省の対応のためか「外来植物」と呼ばれるように変化してきている。

今回は710種に整理番号をつけた。亜種・変種・品種などがそれ以外に59種あり、疑わしい5種には番号を付けていないので774種（分類群）を網羅している。

北海道植物の総数は合田勇太郎(2004)北海道植物誌では約3,700種とあるが、かなり疑わしいものを含んでいる。松井洋(2015)北海道維管束植物目録では約3,200種を掲載している。3,200種の中には残念だが植栽種を含んでおり、帰化植物の抜けも多い。筆者は約3,500種程度が北海道植物全種と考えている。この中で774種（分類群）は22%となりかなり高い比率である。

北海道にある帰化植物を全て網羅した図鑑はない。多く掲載されている図鑑としては梅沢俊氏が2007年に北海道大学出版会から出版した新北海道の花で300種程度である。このため梅沢(2007)に掲載されていない新しい種の中で特徴的な65種をカラー頁で示した。2000年版を出した際も数種（オニハマダイコンなど）は道内初の図鑑掲載種であった。

例年は5種前後の新たな確認が恒例であった。2015年度は友人や知り合い各自に宣伝したためか多くの方々から情報が集まった。全ての産地を確認は出来ていないがこのため15種と例年の3倍の新たな確認が秋まで相次いだ。

今後、現在のガーデニング・ブームが下火にならない限り、外来植物の増大はおさまらないと考えている。

北海道(2010)ブリーリスト以降に確認された新しく種は和名を四角く囲い目立つようにした。また、環境省によって特定外来生物、要注意外来生物に指定された種は太字で目立つようにした。北海道ブルーリストでA2に指定されたものや、最近、指定外来種となったもの（イワミツバ、フラスギク）も太字とした。

今回は出来る限りではあるが、再度現地確認を行って消滅した種も整理をおこなった。774種（分類群）の中で、確認産地も多く、はびこっているのは半数程度ではないかと思われる。



542. アニスヒソップ(シソ科)



578. ホコガタハナガサ(クマツヅラ科)



675. ミツバオオハンゴンソウ(キク科)



303. キレハアオイ(アオイ科)